

シンポジウム「持続可能なヘルスケアシステム」の概要

国際予防医学リスクマネジメント連盟理事長 酒井 亮二

2007年10月6日(土)に、表題の公開シンポジウムが東京大学法学部にて世界学会の支援を得て、開催されました。

<http://www.jsrmpm.org/SHS2007/>

この分野での学会の専門家と招待講演者を交え、かつ自治体からの多数の医療行政担当者、マスメディアならびに医療福祉従事者の参加者との間で、極めて活発な質疑応答がなされました。

会議の主な概要は下記のとおりでしたので、報告します。

- 1) 日本の抱える医師不足の問題は、OECDの諸国に共通している現象である。
他の先進国からの医師派遣はあまり期待できない。
- 2) スウェーデンは高福祉・高負担の国であるが、国民は当然の制度と考え、実質の負担感は高くない。地域の医療事情にきめ細かく対応するため、県単位で医療政策を展開している。
- 3) 日本の医療は診療報酬の適切化の他に、経営(マネジメント)改善の視点が必要である。
- 4) 医療をシステムとして考えることにより、全体的な観点に立脚する合理的な改善が必要である。
- 5) 医療需要は地域格差が大きいので、都道府県の長の積極的な活動が成功の鍵を握っている。

すなわち、合理的な改善を含む医療福祉の改革を自治体を中心となって展開すべきである、という結論でした。それにはマスメディアの力も極めて重要と考える次第です。